

知りたい! 教えない!
最新ニュースいろいろ

PMF news vol.58

◆PMF2011 Special EYES

PMF、新たな時代へII ～ルイジとマーラー～ PMF, Into the New Era II “Luisi and Mahler”

▶公演スケジュール 33 34 36 参照

マーラーとバーンスタイン、そして、ルイジへ。 PMFのステージで深まる「絆」とは?

作曲家マーラーを蘇らせた、 バーンスタイン。

PMF2011のテーマは、「PMF、新たな時代へII～ルイジとマーラー～」。マーラー没後100年という記念すべき年ではあるが、なぜ「マーラー」なのか? マーラーは指揮者として高い名声を築いたが、作曲家としては不遇の時代も過ごしている。特に、戦争を契機に「忘れられた作曲家」となってしまうのは、ユダヤ人という生い立ちも影響しているようだ。マーラーの作品が再評価されるきっかけとなったのは、バーンスタイン指揮による、ニューヨーク・フィルハーモニックとウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏だ。この2つのオーケストラはかつてマーラーも指揮をしており、バーンスタインは心からの共感と情熱を込めてマーラーの世界を見事に蘇らせた。PMFの創設者バーンスタインとマーラーの絆は深い。

ファビオ・ルイジが、 マーラーを選んだ理由。

そして、ルイジである。2004年に初めてPMFに登場した際に、迷うことなくマーラーの交響曲第6番を選んだ。理由は「テクニックのある若者たちを刺激する難しい曲だから」。ルイジがPMFの芸術監督を引き受けたのも、「若い音楽家を育成する」というバーンスタインの理念に共鳴したからだ。彼は、PMFでは「アカデミー生のためになるかどうか?」ということを最優先にする。2011年、ルイジが選んだのは、交響曲第1番 二長調「巨人」。マーラーが28歳の時に作曲した、みずみずしい感性あふれる交響曲だ。若いアカデミー生たちは、この壮大な作品から何を学び、どんな成長を遂げていくのか。ルイジのタクトのもと、時代と世代を超えて、新しい音楽の絆が生まれるに違いない。



©Barbara Luisi

芸術監督 ファビオ・ルイジの素顔にせまる! [PMFスタッフTALK]

—ふだんはどんな方ですか?
もの静かな学者のような感じ。でも、指揮台に立つとエネルギーで情熱的になりますね。

—ファッションは?
おしゃれですね。カラフルなシャツを着こなすあたり、さすがイタリア人! と思います。

—バックステージでは?
本番まで控室にこもる指揮者は多いのですが、アカデミー生やスタッフと談笑しながら出番を待っています。

—アカデミー生ともよく話す?
名前もちゃんと覚えているし、細かいところまでよく見てると感心します。

—何か困ったことはないんですか?
う〜ん…ご自身が、あまり休みを取らないことですかね。少し時間があいたら家族サービスをするんですよ。ちなみに、マエストロの写真で©Barbara Luisiとあるものは、写真家の奥様が撮影したものです。



◆2011 Artist

世界のバリトンが、21年ぶりにPMFへ帰ってくる。 トーマス・ハンブソン(バリトン)

▶公演スケジュール 33 34 36 参照

バリトンとは? 音域でいえば、テノールとバスの中間。オペラの中ではテノールが王子様役とすると、バリトンは王子の親友役(もしくは敵役)。主役ではないが、かかせない役どころとなる。トーマス・ハンブソンは、オペラ「ドン・カルロ」で親友のロドリゴを演じ、「不滅のロドリゴ」と絶賛された。PMFでは、バーンスタインが芸術監督をつとめた第1回の公演で日本のファンを魅了、その後も世界中で美しい歌声を響かせている。オペラのみならず、歌曲への評価も高く、世界屈指のリート歌手と呼ばれるハンブソンほど、マーラーの世界にふさわしい歌手はいないだろう。円熟みを増した深い歌声と若いアカデミー生たちとの共演は必聴だ。



©Dario Acosta

ウィーン・フィルハーモニーの革命を、歓迎しよう。 アルベナ・ダナイローヴァ(ヴァイオリン)

▶公演スケジュール 8 参照

女人禁制。そんな言葉は、めったに聞かなくなったが、わずか10数年前まで女性の入団を認めない楽団があった。PMFにはおなじみのウィーン・フィルハーモニー管弦楽団だ。約170年の歴史を持つ楽団に、初めて女性コンサートマスターが就任した。アルベナ・ダナイローヴァ。ウィーン・フィルの革命とも言われているが、ご本人はいたって平静。「タイミングも良かったし、今の時代に就けない職業はないでしょう」とサラリと言う。そんな彼女が「PMFファカルティ」として指導するのは会期前半。夏はザルツブルグ公演もある忙しい時期をぬっての来日となるが、そのすばらしい演奏&リーダーシップをぜひ確かめてほしい。



フランスに愛され、フランスを愛する、若き指揮者が初来日。 アラン・アルティノグル(客演指揮者)

▶公演スケジュール 3 参照

フランスのクラシック音楽といえば、どんなイメージを思い浮かべるだろう? 色彩感があり、華やかで洗練されていて、詩情豊かで…まさにそのイメージがそのまま現れたような指揮者が、アラン・アルティノグルだ。1975年フランス生まれ。PMFが初来日となる若き指揮者は、パリ管弦楽団などフランスのオーケストラを中心に活躍し、フランスを代表する指揮者へと着実にステップアップしている。若いアカデミー生たちとどんなフランス音楽の世界を描いてくれるのか。ラヴェル、ドビュッシー、そしてPMF初演奏となるフランクの交響曲など、選曲にも注目したい。



©Fred Toulet

◆2011 Topics

ファビオ・ルイジが初めて、指揮者を指導する 「コンダクティング・アカデミー」を開催!

▶公演スケジュール 19 参照

オーケストラを束ねる指揮者。その指揮台に立つまでの道のりはかなり険しい。大学の指揮科を出たところですぐに、若い指揮者が舞台に立つチャンスを持つことは難しい。かのバーンスタインはブルーノ・ワルターの代役で急きょ指揮をすることになり、ノーリハーサルで見事な演奏を披露し、名声を高めていったという逸話がある。PMF2011では、若手指揮者を育成する「コンダクティング・アカデミー」を開催する。指導するのは、芸術監督ファビオ・ルイジ。いま、ルイジから直接指揮を学ぶことができるのは世界中でPMFだけ。指導を受けるのは世界中のオーディションから選ばれた4人。その成果は、「PMFコンダクティング・アカデミー演奏会」で披露される。



▶公演スケジュール 19 参照

◎若い指揮者と新進ヴァイオリニストが共演

PMFコンダクティング・アカデミー演奏会で演奏されるチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲のソリストに選ばれたのが、アルメニア出身のアムシ・ニコゴシアンだ。ルイジが審査員をつとめる国際コンクールで優勝し、その才能が高く評価されたという若手ヴァイオリニストにも注目だ。

◎オープンリハーサルと教育セミナーも注目!

ルイジが指導する風景を見学できる人気の「オープンリハーサル」に加え、アルベナ・ダナイローヴァのトーク&演奏や、トーマス・ハンブソンのリハーサルが聴ける「PMF教育セミナー」も全4コース開催される。昨年までは音楽関係者だけだったが、今年は高校生以上であれば誰でも参加でき、1コースから申し込みができる。PMFだからこそできる充実のプログラムをぜひ体験してほしい。